

京都府立山城高等学校 創立百年記念に寄せて

第十九代 山口 忠 夫

京都府立山城高等学校が創立百年を迎えられ記念誌を発刊されることになりましたことを心からお喜び申し上げます。

顧みますと、明治四十年京都府立第五中学校として創立、十年後の大正七年京都府立京都第三中学校と改称され、その三十年後の昭和二十三年京都府立山城高等学校として発足、その後、人生の還暦にあたる六十年が過ぎ、創立百年を迎えられたと思います。

私は、平成六年と七年の二年間最後の勤務校として本校にお世話になりました。お世話になった当初、本校の旧制中学校時代の年配の卒業生がお見えになり、五中の話をされ戸惑ったことを思い出しております。京三中のことは少々知識がありました。創立当初の五中のことは認識不足でした。その為、本校

の創立旧制中学校からの沿革について、当時調べたことを思い出し、まず書き留めたいと思います。

本校が、創立した明治四十年当時、既に京都府立第一中学校（略称一中、現洛北高校）、二中（鳥羽高校）、三中（福知山）、四中（宮津）があり、第五番目のナンバー・スクールとして本校ができ、五中（山城）として発足しました。それが、大正五年頃ナンバー・スクールを改め、近衛中（一中）、鳥羽中（二中）、福知山中（三中）、宮津中（四中）、花園中（五中）に改称する動きがありましたが大正七年に、福知山中（三中）、宮津中（四中）だけが地名スクールになり、京都市内の一中、二中、五中のナンバー・スクールが残ったので京都市内の京を付けて、京一中（一中）、京二中（二中）、京三中（五中が三中に変更）と改称されました。

学制改革により、新制高等学校が昭和二十三年度から実施されるため、昭和二十三年三月三十一日に旧制中学校、高等女学校、実業学校等が廃止され、同年四月一日にそれらが第一次新制高等学校として発足しました。本校は、京三中が山城高校、そして、旧制夜間中学校として昭和十一年三中夜間中学が発足、昭和十八年改称された双陵中学校が、双陵高校となりました。同年十月十五日に新制高等学校の再編成が行われ、十月三十日付けで第一次新制高等学校が全て廃止され、翌日の十月三十一

日に第二次新制高等学校が設置されました。本校は、京三中が山城高校の全日制、双陵高校が定時制となり、山城高校（全日制、定時制）として再出発しました。

また、本校同窓会は、大正三年十月京都府立第五中学校同窓会として発足、大正七年京都府立京都第三中学校同窓会、昭和三十三年京三中（旧五中を含む）・山城高双陵同窓会が再建確立されました。昭和四十一年六月東京支部が結成されておりま

す。

平成六年五月七日、京三中・山城高双陵同窓会「三七会」主催で行われた、学徒動員殉難記念碑除幕式に参列いたしました。その殉難記念碑は、京三中第三十七期生の二百五十名が四年生の昭和十九年七月、学徒動員令により愛知県半田市の中島飛行機製作所山方工場に赴き、昭和十九年十二月七日に地震のため百五十三名の殉難者があり、その内十三名が京三中の方々で、その五十回忌を記念して建立されました。謹んで御霊の安らかに眠られんことをお祈りいたします。

平成七年度東京支部総会が、平成七年六月八日に帝国ホテルで開催され、お招きを受けたとき、京三中時代の同窓生が、開口一番「今、東大、京大に何人合格されていますか。」と言われ冷や汗をかいたことを思い出しています。このように、京三中時代は、ナンバー・スクールのエリート養成の学校であり、

卒業生はプライドを持っておられます。

本校の同窓会が、創立百年を契機として今後ますます充実発展されますことをお祈りいたします。



山城14回 岡本通雄